

# 三原やっさ踊りレポート

## やっさ踊りの由来

今から約430年前の永禄10年(1567年)戦国時代の智将とうたわれた毛利元就の三男小早川隆景が、瀬戸内の水軍を統率するために、水・陸交通の要地である備後の国三原の湾内(沼田川河口)に浮かぶ大小無数の島々をつないで海城を築いた。これが三原城で、三原瀬戸を往来する船から見ると、海上に城がそびえるかのように見えたので「浮城」と呼ばれた。この築城の際、落成を祝して、老若男女を問わず三味線、太鼓、笛などを打ち鳴らし、祝い酒に酔って思い思いの歌を口ずさみながら踊り出たのが始まりといわれている。

歌詞は時代と共に移り変わり、近郷の地唄、はやり唄なども大きく影響し、歌も身なりも変化したし、踊り方も型にとらわれることなく、子ども婦人を先頭にして、一組ずつ三味線、笛、太鼓、胡弓等を取り入れて踊るようになり、はやし言葉が「やっさ、やっさ」と声をかけられるところから、いつしかこの踊りは『やっさ踊り』と呼ばれるようになった。

全盛を極めた明治のはじめ頃は、子どもが踊りの先頭で、白シャツに白鉢巻姿で日の丸扇子を両手に持って踊り、その後に各組の踊り子が続いたものである。また当時の娘達はみな三味線が弾けたもので、毎年お盆の3日間は町中を踊りまわり、夜が明けるまで賑わっていた。

やっさ踊りの特徴は足の踊りと言われ、動きのある踊りであるが、決まった踊りの型はなく、はやしのリズムに合わせ、各人各様におもしろく気やすく踊れるところにある。

## 三原にはもともと踊りに2つの型があった

- ・一つ拍子の円輪型
- ・二つ拍子で主に婦人と子供の踊る行進型

「やっさ踊り」の原型

◆ 広島県の各地において円輪型の盆踊りが行われる中に、ただ2カ所の盆踊りが行進型を用いている。  
◆ ・三原市「やっさ踊り」  
◆ ・福山市「二上り踊り」

新仏の出た年は、寺内で踊ったあと寺を出て新仏の家の前へ行き、その霊を慰めるためにそこで踊ったと言われる。

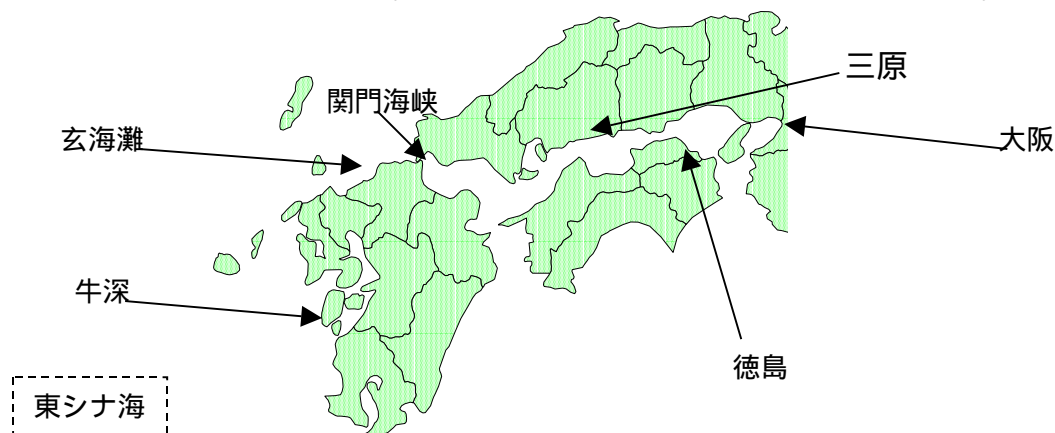
## 踊りの調子

はじめは二つ拍子が主、その他に三つ拍子、四つ拍子があった。

四つ拍子がテンポが速いため人々から歓迎され、いつの間にかこれのみに限られた。

したがって踊りの動作は早い

九州は天草の牛深(熊本県牛深市牛深町)生まれの「ハイヤー節」が鹿児島県 東シナ海 玄海灘 関門海峡 瀬戸内海 大阪 という航路を往来する船乗りによって広められており、三原の港へも持ちこまれた。この「ハイヤー節」のメロディが「やっさ踊り」のメロディである。なお、四国徳島では、いち早く盆踊りに取り上げられ、急テンポに唄いかえられると共に、歌詞も改められたのが「阿波踊り」である。これは今日でも伴奏と踊りはそっくりである。



### やっさ踊りに関して

昔は今みたいに綺麗ではなく、また派手さもない。桶やビール瓶で勝手にやっていた。しかし、ラジオの普及で音楽が統一され、テレビの普及で踊りが統一した。昔は勝手に踊っていたが、テレビのお蔭で”見せる踊り”へと変化していった。しかし、昔から大きな変化はない。日本民俗学専門家が三原やっさは昔ながらのクサさが残っているから、変えないで欲しいと言われている。

### 練習について

毎年8月が祭りなので、7月には入ると中央公民館で毎週木曜日に「やっさ教室」を開いている。基本から踊りを教えていく。予備知識で三原城のお祝いだから笑顔でやることぐらいは教えておく。踊りの基礎は教えるが、練習は鏡の前でやって、自分が一番いいと思う姿で仕上げる。そうすると個性も出てくる。

= 認定 =

踊りは3級から1級まであって、1級では指導員になれる。「やっさ教室」の最終日の1週前に試験を受けて、認定をもらうことができる。

### 他県の反応

指導員達で構成する「三原やっさ踊り振興協議会」が大会や他県へ行って踊る場合は、表情も踊りも大変良い評価を頂けるが、三原やっさ祭りで実際踊っている人を見ると、表情が固かったり、恥ずかしさがあったり、と他県の人を期待外れにしたり、印象を悪くさせたりしている。

### 今の三原やっさに至るまで

明治時代は賑やかであったが、戦時中は10年くらい途切れた。戦後しばらくして、行政が小学校の校庭などを使って「やっさ踊り大会」として復活させた。審査員もいて上手下手を競った。その大会が夏の定番となり三原市、商工会議所、青年会議所が中心となって盛り上げていき今の祭りに至った。

### その他

祭り以外で踊ることもある。”祝い踊り”なので結婚式、新築祝いなど祝い事ならなんでもOK。リズムがとれれば何でもいいので、桶やビール瓶などを使って10～20人で即興で踊ることができる。また何人が雇って踊ってもらうこともできる。

### 三原やっさ踊り唄

見たかエー（ハ ヤッサヤッサ）

見たか聞いたか三原の城はエー

（ハ アラ ヨイヨイ ヨイヤナ ヨイヤナー）

地から湧いたか サーマヨ（ハ ヤッサヤッサ）

浮城かヨ（ヤッサ ヤッサ ヤッサモッサ ソッチャセー）

言っているのは三原の住人で海から眺める三原城の素晴らしさを自慢したい人。

聞かされているのは三原へやってきた他国の人

= 歌詞の意味 =

美しくて評判だという三原の城。ここは小早川隆景が築いた城で、南の瀬戸内側から見ると石垣が地面からそびえ立つ大木の根が張ったように見えて、まるでお城が大地から生え育ったようにも見えるし、石垣の足元までが海面なので、海上に城が浮いているようにも見える。こんな格好のよい城は他にはないだろう。

このレポートは、1997年エリザベト音楽大学の学生4名により作られたものです。